

令和元年度の評価

2020年4月

1. 評価方法・結果

評価項目は、本校が平成27年度に専修学校における学校評価ガイドラインに基づき検討された評価項目10カテゴリ60項目である。評価基準は5段階5(よい)、4(ややよい)、3(どちらともいえない)、2(やや不十分)、1(不十分)とした。教員間で自己評価を行った。結果は、半数以上の項目は平均3.50を超えていたが、財務は低く3.00であった。

I 教育理念・目的・人材育成	II 学校運営	III 教育活動	IV 学習成果	V 学生支援	VI 教育環境	VII 学生の受け入れ募集	VIII 財務	IX 法令等の遵守	X 社会貢献・地域貢献
4.20	3.59	3.80	3.45	3.69	3.33	4.08	3.00	3.97	3.97

学校評価自己点検(2019年)結果



2. 課題

財務については低い評価であった。本校はまもなく30年が経ち、校舎の老朽化に伴い電気設備や外壁等の修繕が必要となってきた。また、新カリキュラム改正に向けて成績管理システムの入替え等もあり、計画的な財源管理・確保の検討が必要である。

3. その他

平成31年3月に看護教員研修会や令和2年2月に臨床指導者研修会を、本校主催で近隣の看護師養成校の教員や実習施設の臨地実習指導者と共に研修会を開催している。今後も学外関係者の方々と交流を図りながら、講演会や本校卒業生の活動状況報告会等を計画していく。

平成 29 年度の評価（一部概要）

平成 30 年 4 月

1、自己点検・自己評価の公開

学校評価委員会にて定期的に自己点検自己評価を行い、その結果を平成 27 年 6 月からホームページ上で公開している。今回は 3 回目の公開である。

2、学習成果の評価

平成 29 年度は専任教員全員分の講義評価を実施した。（実習指導評価は平成 26 年より行なっている）内容を学校評価会議で検討し改善に活かしている。
今後は外部講師も含めた授業評価を行う予定である。

3、学校関係者（在校生・卒業生・保護者・組織関係者等）の評価

卒業生のアンケートでは、学校の良さと改善すべき点が明確になり学校評価に多いに役立った。在校生からは、目安箱や話し合いから評価をすくい上げた。

平成 29 年度は、24 回生の保護者を対象に学校教育に関するアンケートを行った。
平成 30 年度も、25・26 回生の保護者を対象にアンケートを実施する。

外部講師からは、学校・学生の情報を提供しながら積極的に意見を収集した。
平成 29 年度は、隣接医療施設の組織連携会議(6 部署合同会議)に参加し、意見交換を行なった。その他の実習施設とは臨床指導者会議等の機会を活かして評価を吸い上げた。

4、教育環境の整備

平成 27 年末に 1 階全てのリフォームを行ない、器材教材備品も多数購入した。
平成 29 年度は教材備品等の定期的な点検と補充を行った。

5、資格取得率

新卒看護師国家試験合格率は、この数年 100%～全国平均以上と好成績だったが平成 29 年度は低迷した。原因分析の結果から、平成 30 年度は国家試験対策を修正し強化する。

6、その他

面倒見がよく学生一人一人を大切にし、互いによく話し合う校風を継続してきた。
専門家の支援が必要な学生には専門家を紹介しフォローした。

平成 29 年度は、茨城県さしま青少年自然の家の運営会議の参加、近隣高等学校での「看護学校模擬授業」「性教育」等の講義を行った。又 1 年生を中心に地域で多くのボランティア活動を行ない、病院等ではクリスマス会を開催するなど積極的な地域貢献活動を行った。

以上

平成 27～28 年度の評価（一部概要）

平成 29 年 2 月

1、自己点検・自己評価の公開

平成 27 年 6 月からホームページで公開している。平成 29 年 2 月に更新した。

2、学習成果の評価と公開

授業アンケートの調査は中断したが、平成 29 年度は実施する。

3、学校関係者（在校生・卒業生・保護者・組織関係者等）の評価

在校生・卒業生の意見は吸い上げ同窓会長とも連携している。組織的取り組みには至らず。

一部の保護者とは学生の問題解決の目的で密に話し合っているが、大半の保護者とは入学時の懇談会以降、話を聞く機会が少ない。定期的に文書で成績の報告をしているので、今後はこの機会を活かす。

外部講師とは、学校・学生の情報を提供しながら意見交換をしている。

隣接実習施設の組織連携会議（仮称 6 部署合同会議）に参加し、意見交換をしている。

その他の実習施設とは臨床指導者会議等の機会を活かしていく。

4、教育環境の整備

老朽化が問題である。平成 27 年 8 月にトイレをリフォームしたが被災。その後 1 階全ての修繕を行った。今後も教材備品等の補充の他、校舎のリフォームを段階的に計画する。

5、資格取得率

新卒看護師国家試験合格率は、平成 27 年(104 回)は 97%、平成 28 年(105 回)は 100%と好成績だった。

6、その他

面倒見の良い教育風土を継続している。教員は学生をよく把握し、必要時は専門家の意見を聞きながら関わっている。退学者は学年に 1～2 名と少ない。

平成 27 年夏には「潜在看護師対象の地域就業支援研修」を開催した。

今後、筑波大学と連携し子供対象の事業に協力する計画をしている。

教員が、近隣高等学校で「性教育」、看護協会で「在宅看護」の講演をした。

茨城県青少年自然の家の運営委員も行っている。

学生は、高齢者福祉施設などでボランティア活動を行った。また、病院と通所リハビリテーションでクリスマス会も開催した。このような地域貢献活動は今後も継続する。

以上

茨城県きぬ看護専門学校における学校評価

平成 27 年 6 月

本校では教育の質保証・質向上に向けて、学校評価を実施するための準備を進め、平成 26 年 6 月に「学校評価検討委員会」を設立した。委員会の構成員は、学校長、副学校長、教務主任、副教務主任、実習調整者、事務長、事務係長とし、その他学校長が必要と認めた者（教員等）が、適宜参加するとした。平成 26 年 6 月から平成 27 年 6 月まで、計 8 回の委員会を開催し、自己点検自己評価を行なった。ここにその結果を報告する。

評価内容は、専修学校における学校評価ガイドラインに基づき I 教育理念・教育目的・人材育成像、II 学校運営、III 教育活動、IV 学修成果、V 学生支援、VI 教育環境、VII 学生の受け入れ募集、VIII 財務、IX 法令等の遵守、X 社会貢献・地域貢献とした。小項目にして計 60 項目を点検・評価した。それぞれに対して「考え方・目的・方針」「現状と具体的取り組み」「課題と解決方法」「参考資料」を確認しながら、4（適切）、3（ほぼ適切）、2（やや不適切）、1（不適切）で評価した。自己点検自己評価の過程で、組織運営や日常の教育活動を客観視し、課題と解決策だけでなく、自校の良さ強みも明らかにすることが出来た。

今回は、自己評価の総合評価(概要)を公表する。

主な課題は

- 1、自己評価の公開
- 2、学習成果の評価と公開
- 3、学校関係者(在校生、卒業生、保護者、関係組織等)評価
- 4、教育環境の老朽化
- 5、資格取得率 等である。

主な解決策は(平成 27 年度～平成 28 年度)

- 1、ホームページに学校評価について掲載する
- 2、授業アンケート評価の調査報告を行う
- 3、学校関係者との話し合いの機会を設ける
- 4、老朽化が著しい箇所の改修を進める
- 5、国家試験対策を強化する(104 回は新卒 97%であった) 等である。

本校の良さ強みは、

- 1、教育理念・育成人材像等を明確に定めている
- 2、家庭的規模で面倒見の良い組織風土がある
- 3、実習施設との連携がしっかりしている
- 4、教育課程にボランティア活動を組み込み、福祉施設と連携しながら活動を支援している
- 5、近隣高校・近隣施設との連携による教育活動を行っている 等である。

課題の解決と同様、これら良さ強みの維持向上も図って行く。